

令和5年5月22日

理事長 殿

## 令和4年度 特定課題研究費研究報告書

研究代表者	所属	一般科	職	准教授	氏名	海上 順代
研究分担者	所属	一般科	職	教授	氏名	高野 光男
	所属	一般科	職	教授	氏名	古川 浩洋
	所属		職		氏名	
研究課題名	(和文)アクティブ・ラーニングを用いた「課題研究」における学生指導法の開発 (英文) Development of teaching method for college students in Task-based Studies by using active learning					
研究種目	教育課題研究					
研究実績の概要						
<p>令和4年度の課題研究は、「国語系」「体育系」「英語系」の3教員が、各系列の受講生と共にアクティブラーニング形式で授業を展開した。当初のガイダンス以降は系列に分かれ、指導教員の意見を聞きながら受講生自身が小グループに分かれ協力して調査を行い、中間発表と最終発表を行った。テーマ選択までは指導教員から指導を受ける部分は多かったものの、テーマ決定後は各自のテーマに適したアプローチを自ら選び、必要な情報収集・データ分析・考察は受講者自身が責任を持って行うことが出来た。課題研究「英語系」に関しては、英語でのプレゼンの為の発表練習課題に取り組みながら、並行してテーマ決めとプレゼン資料となるレジメとパワーポイントの作成を行った。中間発表まではテーマの選択や発表法にも改善の余地が見られたが、受講生自身が中間発表から改善点に気づき、問題意識が高まったのはアクティブラーニングの授業形態がプラスに働いた部分と思われた。調査を開始する為の基礎的な情報と調査資料を教員側が提示することで、その次の段階の作業は学生間で進行できると分かった。最終発表前は学生が主体的に発表練習や原稿の改善に務め、当初よりも語学的にも調査法にも進歩が見られ、全グループとも能力を伸ばしたことが認められた。課題研究「国語系」では「校歌」に関して、テキストマイニングソフトを使用した定量分析やシンボル化の調査など様々なアプローチで調査が行われた。課題研究「体育系」ではオリンピック・パラリンピックの現状と課題について、コロナ禍での開催、コロナ後での開催の比較、大会招致や実施運営などのテーマから調査が行われた。</p>						
研究発表（論文、著書、講演等）						
令和5年度 全国英語教育学会香川大会 個人発表応募（課題研究英語系：授業報告）						
その他（教育活動・OPCへの貢献、特許等）						
<p>課題研究英語系に関しては、担当教員が英語Vで行っている英文アブストラクト作成と発表と、課題研究中間発表と最終発表で行った英語による原稿作成、パワーポイント作成、プレゼンの実践は連動性があり、今後の必修の英語科目の授業法に取り入れられる部分が多かった。</p>						